

バンコク宣言

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2003）は、2003年11月18日から21日までタイ王国バンコク市において、23カ国から600人以上の参加者を得て開催された。これまでのエメックス会議において、我々は閉鎖性海域そのものから、沿岸海域の生態系全体へ、さらに海辺から周辺の水域を経て、流域全体へと考えを広めてきた。バンコク会議では、この考えをさらに押し進め、沿岸域の生態系の重要な要素である地域社会や地域の人々を含め、そのテーマを「自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための包括的な責任ある沿岸域管理」とした。

我々の科学的調査・研究は、水質悪化の原因、ならびに世界の沿岸域生態系生息地の喪失を理解する上で大きな進歩をとげた。これらの調査・研究は、最も効果的な環境政策を可能とする基礎となるもので、その達成は、今後の進歩の上で必要不可欠なものである。ところで、点源汚染の抑制ならびに規制を行う上で、技術の革新はこれまで大きな役割を果たしてきた。このような進歩は、下水処理施設の改善や工場排水規制、ならびに栄養塩の負荷低減をも含むものである。

さらに、資源管理・保全の努力は、我々の沿岸域での漁場の回復、ならびに持続可能な方法での管理を可能とした。これは賞賛に値する。

しかしながら全体から見て、このような成功例に対し、なお沿岸海域は十分に対応しているとはいえないという認識と懸念が広がりつつある。このような進歩は、これまで見落とされてきた非点源汚染からの汚染対策に対し、有効で画期的な進歩となることは明らかとなりつつある。技術革新によって前進を見てきた点源汚染とは異なり、非点源汚染の抑制は、人間の行動の変化に大きく依存することとなるであろう。このような行動の変化として以下のものが指摘される。

制御困難な洪水、地下への不浸透による流水、自然海岸の浸食のような環境破壊を最小限に抑制する沿岸の市・町・村の政策展開

共存活動の圏域（working landscapes）の保護。すなわち、これは生産の場としての農場、森林のような陸の圏域、ならびに同様に資源としての、漁業、商業、およびリクリエーションのような海の圏域を意味する。この圏域は歴史的背景を有する自然と人間の、今日まで維持されてきた共存を反映する。またこのことは、活力ある資源に基礎を置いた沿岸域の経済活動によって持続される、沿岸生態系の多様性を確実にするものである。

非効率的なエネルギー消費をもたらす現在の交通手段、ならびに発電所などからの排出による大気汚染物資の低減

世界の閉鎖性海域の継続的な劣化と生物資源の減少は、世界の沿岸域コミュニティ、その経済ならびに伝統、文化及びそれら地域の特性を維持する自然の美しさの、将来に対する直接的な脅威となっている。このような特性の喪失は、その特色の喪失、所属する文化、快適さの喪失、並びに文化の多様性の価値の否定につながるものである。

これまでエメックス宣言において、我々は有効な沿岸域の統治にとって、市民、NGO、科学者、教育者、政策立案者の間の協働に対する認識の重要性を認めてきた。しかし、我々は、協働だけではもはや十分でないことを認識している。現在必要なのは積極的な参加なのである。特にこのような参加は、これまで以上に沿岸域のコミュニティ、ならびに市民を巻き込むことが必要であると考えられる。さらにより効果的な環境教育が、参加を促進する上で必要であると強く信じている。

我々、第6回エメックス会議の参加者は、自然と人々の持続可能で友好的な共生を図るための、包括的な責任ある沿岸域管理に以下の対策の指針を提示する。

1. 世界の沿岸域につながる流域での持続的環境管理、「共存活動の圏域」、ならびに、その場所への、人の帰属意識の間には何の矛盾も存在しない。水質と生活の質とは密接に結びついている。コミュニティには、地域の指導者のもとでその将来の経済的、文化的ならびに環境面での持続を可能とする市民の責任ある行動を推進する一層積極的役割が期待される。
2. 真に統合された沿岸域管理政策において、人は沿岸域生態系の構成要素として扱われる。このような政策は、沿岸コミュニティと「共存活動の圏域」の持続性と活性化を中心に据えた目標として、含まれなければならない、この目標達成のためにコミュニティの全面的な参加を促進するものでなければならない。
3. 学校の正規の授業ならびに青少年に対する特別なセンター、および成人に対するプログラムを通じて行われる環境教育は、極めて重要である。特に、最近の傾向である子ども達が、全ての五感を使って、自然環境を体験する機会が少なくなっているという現状や、限られた触れ合い、公害や地球規模の環境破壊への恐れに身を曝していくという傾向に対処していかなければならない。我々は、子ども達が自然との関わりによって違いが生じてくるような地域の例に基づいて、直接の自然を学ぶ機会が必要であると考え。我々は、子ども達が海や川、森や野原、自然の遺産や育った生態系場所について失われた好奇心を伝えていく必要があると考える。
4. 科学は、単なる新しい情報源として以上の意味を持つ。新しい知識や技術の開発は、人類に役立つものでなければ何の価値も持たない。科学は、その知識を教育者、コミュニティの指導者、政策立案者に対して単なる意見・見解ではなく、生きたデータに基づいて活用されなければならない。
5. 政府は、政策の推進者であり同時に規制者である。単なる規制だけでは、世界の沿岸域の問題を解決することはできない。研究を促進し、データの解析を進め、広く環境教育を進める多様な政策が実施されるべきである。政策の究極の目的は、沿岸域管理における中心的役割を積極的に果たす行為を通じて、地域の経済基盤、市民の帰属意識を自らの手で維持するよう努めることにある。国際機関は、流域とその他の生態系に基づくプログラムを達成する計画の間の協力を推進する上で、これまでの国家間の境界線を越えて活動しうる能力を有するので、一層有効な積極的役割を果たすことができる。
6. 作家、コラムニスト、詩人など文化的な価値の伝達者は、我々の閉鎖性海域の持続可能な発展を進める上で、重要な役割を果たしている。これらの人々は、維持可能な環境政策を採用し、機能させる上で、その地域の価値を伝えるため重要な役割を果たしていると考え。

この会議は、若い世代の人々とその指導者に、閉鎖性海域の環境管理に直接関わる機会を持ってもらう新しい試みとして、EMECS Schools and Students Partnership (青少年環境教育交流)を実施した。この宣言には今回の交流で示された経験と知恵が生かされている。我々の政策が次世代の人々の高い生活水準を保証するという、誤った認識を抱きがちである。しかし我々は、次代の子ども達の将来に責任を持っているという事実に注意を払うべきである。すなわち、次代の高い生活水準を永久に継続し得るような条件を提示したいと考える。彼らと我々の間は、相互に緊密な関係にあり、依存と協力が不可欠である。

EMECS2003参加者一同
2003年11月21日
(事務局仮訳)